

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社ウッドワン本社工場

(2) 事業所の所在地

広島県廿日市市木材港南1-1

(3) 業種

1331 建具製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、2018年度を基準年度とし、2019年度から2021年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 従来からのISOのEMS推進組織により省エネルギー活動を継続するものとし、2014年の推進者会議において中長期計画を作成した。また「**全社EMS環境目的**」の中にエネルギー原単位の削減目標を明記し、各EMSサイトに於いて四半期毎の達成状況のチェックを実施します。また事業者の判断基準に基づき各サイトで管理標準の作成を行い、推進者会議において全体の取りまとめを行います。
2. また全社員の経営活動への参加の一環として実施されてきた「**JAMP**」活動の中で毎年1回各工場の省エネ活動の発表及び受賞が行なわれており、引き続き実施していきます。
3. 全社「**TPM**」活動のなかで各設備の設備総合効率の改善を行い、エネルギー原単位の削減につながる活動を行っている。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	2018年度	平成 年度
二酸化炭素	4,637	

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (2018年度)	削減目標		目標年度 (2021年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2	4,637	3.0	139	4,498
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方	全社目標を対前年1%削減としている			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

生産金額(千万円)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (2018年度)			原単位 削減目標	目標年度 (2021年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	4,637	2,085	2.22	#VALUE!			
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	石油換算 5kL/年間	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラードレントラップの改修 ・ボイラー蒸気配管保温材の改修
2	電気使用量の削減	石油換算 86kL/年間	<ul style="list-style-type: none"> ・集塵ファンのインバーター制御 ・エアコンプレッサーのロス削減 ・UV乾燥機の空転時出力調整 ・設備総合効率向上による生産性アップ
3	上水道水の削減	148,000m ³ /年間	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所冷却水に地下水を使用
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

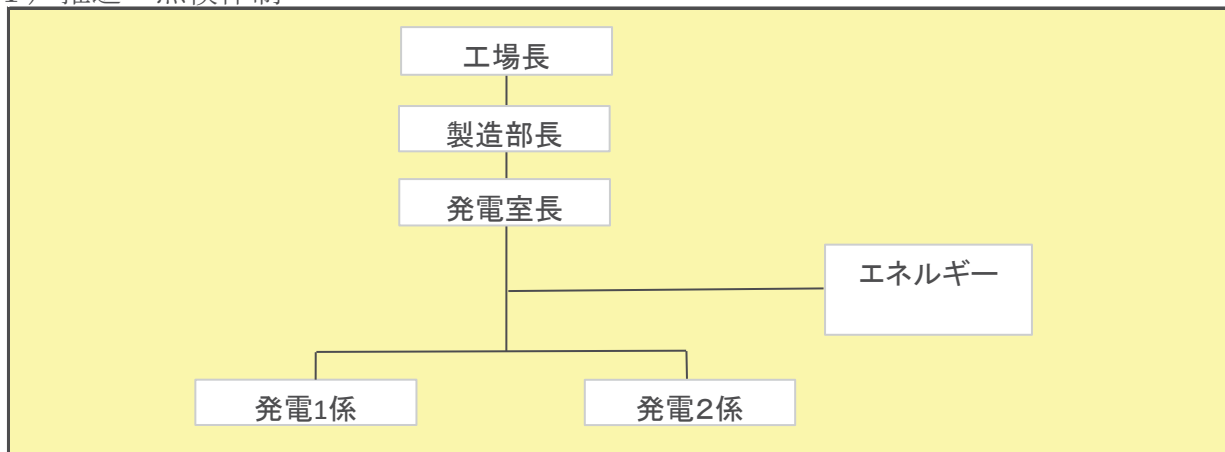
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

1. 従来からのISOのEMS推進組織により省エネルギー活動を継続するものとし、2014年の推進者会議において中長期計画を作成した。また「**全社EMS環境目的**」の中にエネルギー原単位の削減目標を明記し、各EMSサイトに於いて四半期毎の達成状況のチェックを実施します。また事業者の判断基準に基づき各サイトで管理標準の作成を行い、推進者会議において全体の取りまとめを行います。
2. また全社員の経営活動への参加の一環として実施されてきた「**JAMP**」活動の中で毎年1回各工場の省エネ活動の発表及び受賞が行なわれており、引き続き実施していきます。
3. 全社「**TPM**」活動のなかで各設備の設備総合効率の改善を行い、エネルギー原単位の削減につながる活動を行っている。

(3) 計画書等の公表

1. 省エネ法の定期報告書の中で中長期計画書として報告している。
2. 毎年環境レポートを当社ホームページに掲載